

議事(2)(事務局発表)の内容について

NO.	要旨
1	ゲストの発表事例と、収益性が極めて低い土地の関係性が不明瞭。 <u>今年度の議論の対象とする領域(収益性が極めて低い土地の定義)、昨年度(2018とりまとめ)との関係性、今回のゲストスピーカーの発表の位置づけ等をよく整理してほしい</u> (中村委員)
2	現地調査の際は、適切な管理がなされていない土地だけでなく、 <u>うまく管理している事例</u> も集めていただきたい(大原委員)
3	外部不経済を抑制するための <u>費用対効果が高い管理方法が存在しない場合でも、公的資金を投入することを考える必要性</u> を検討することも考えるべきではないか(土屋委員)
4	<u>市町村もしくはより小さな単位で、管理ビジョンを策定し、できれば国土利用計画への反映も意識することが必要で、これまでのようななし崩し的な耕作放棄や撤退を防ぐための協議の場が必要</u> ではないかと思う。チャートについてだが、「費用対効果が高い管理方法を模索するのは誰か」が重要。キーパーソンの有無で分類が変わってしまう。管理ビジョンつくるときも、色分けはできなくて、 <u>模索する主体を探すことがむしろ大切</u> なのではないか。(広田委員)
5	このチャートのみで管理をするかしないかの色分け(線引き)をするのは無理だろうと思う。まずは、地図で外部不経済の分布図を表すことから始めるべきではないか。 <u>外部不経済が見える化した結果、その次に管理をした方が良いかどうかの結論が出てくる</u> んだと思う(一ノ瀬委員)
6	土砂災害警戒区域図のような <u>外部不経済が見える化したものを、いくつかレイヤーで重ねる</u> イメージかもしれない。(中出委員長)
7	外部不経済は、多くが定量化できないのではないかと。 <u>外部不経済として何を意識するかは、国から提示するよりも、ボトムアップで地域が考える方が自然</u> 。その上で、地域で認識できていない部分を国からアラーム的に知らせることも大事。 <u>無視できない外部不経済があるにも関わらず「必要最小限の管理」とするケースがあるという整理にも違和感</u> がある。(中村委員)

(第10回国土管理専門委員会)での委員からの主な御意見

全体を通じての意見

NO.	要旨
1	「利用なきところに管理なし」と前から言っている。 <u>収益性だけで撤退ばかり議論していただくのではなく、何とかしようとする主体の動きを促進していくことが必要</u> 。管理計画が単独であるのではなく、地域の振興計画の中で管理計画があるべきだと思う。(広田委員)
2	<u>収益性で土地を切ってしまうのは割り切りすぎている印象</u> がある。チャート1枚で説明するのは無理がある。 <u>まずは空間で分析し、トレードオフ、シナジーを検討する。そこにいろんなステークホルダーが関わって、意思決定をしていくプロセス</u> なのではないか。(一ノ瀬委員)
3	概念整理のためにはよいと思うが、地域の課題解決のためのアプローチとして活用できるスキームかどうかは、やってみないと分からない。 <u>一回モデル的にどこかの地域でやってみてはどうか</u> (中村委員)
4	<u>地域の方は、土地を客観的に見ていないし、手をかけるべきか放置して良いかは理解していない</u> と思う。今後全体を見て、ここは災害が起こりそうだからちゃんと管理するとか、ここは今のままでいいのではないかなど、地域で議論しないといけないと思っている。(NPO法人まめってえ鬼無里 吉田事務局長)
5	なぜ維持される棚田とそうじゃない棚田に分かれてくるのか。 <u>農家の事情、体調や意欲が要因なのか、あるいはそれ以外の要因もあり得るのか</u> を知りたい。(大原委員)
6	比較的維持されている栃倉・田沢沖の棚田は、公的資金を使って、ほ場整備されており、農道も良く、機械も入りやすい。それでも近年は後継者不足で、管理できないところも増えている。しばらくは大丈夫だろうが、将来的には厳しい。栃倉・田沢沖の棚田は景観も良く、土地の利もあると思う。 <u>土地の利と、個人のやる気</u> が大きい。(NPO法人中条地区住民自治協議会 大日方事務局長)
7	広田先生のいう「利活用があって管理がある」というのも分かるが、人口が減少する中で、特に地方においては、利活用できない土地も出てくる。 <u>国土管理についても、長期的でゆるやかだが大きい変化について、対応を考えていかなければいけない</u> と思う。今まではこうだったからという発想ではない発想で、 <u>新しいことを提言していく必要</u> がある。(中出委員長)

一般傍聴者へのアンケート(第10回国土管理専門委員会)での主な御意見

議事(1)(事例紹介)の内容について

NO.	回答要旨
1	領域 と の区分は難しい。領域 の再生のポイントとなる「小さな利益」は誰にとっての利益かを明確にする必要がある。 <u>領域 への対応は、 → → まで戻れるような体系的な施策(も も含めた)の上に立った対応が必要。</u>
2	ソルガムは構想としては良いと思うが、高齢者世帯は現在傾斜地において自給用から販売用までと、できる限りの作物を生産し、プラス年金での生活を営んでいる中で、 <u>ソルガム生産に切り替える優位性や魅力があるのか。農業公社や農協が主体となって取り組まなければ面積は増やせないのではないか。</u>
3	支障木の視点で事例発表を用意して頂いたことは意味があった。 <u>中山間地では補助金対象の森林地以外の支障木は手がつけられず問題化</u> している。道路沿いの交通支障木、景観支障木等、高齢化や所有者の確認の問題から放置され、木は成長し、住民レベルで管理できず、業者に任せるカネもない。
4	ソルガム、まめってえ共にどこでも <u>やる気のある人さえいれば取り組める活動</u> と感じた。
5	中山間地域の大変な厳しさを知ることができた。農業をはじめ産業が後継者不足である。地域に住めるハンデの解決が第一と思う。異常気象の現今、 <u>地すべり防止策、土砂流出防止策も優先に実行してほしい</u> 。農用地が傾斜地のため機械作業が困難であり <u>労力不足の充足が課題</u> である。
6	<u>様々な事例が全国的に共有できると良い</u> と感じた。

(誤字等は事務局で修正を行っている。)

一般傍聴者へのアンケート(第10回国土管理専門委員会)での主な御意見

議事(2)(事務局発表)の内容について

NO.	回答要旨
1	一部で導入されている「森林税」のような特別な資金を使い、 <u>地権者に代わり、直接的な対応により再生していく取組を続けていく。再生地については、地権者も含めた「管理組織」によるある程度の規模で対応する必要がある。</u>
2	里山の景観は、人が住むこと、農業をしたり、森林の管理によって守られていると思う。まだ今後、 <u>里山の魅力を探る必要がある。</u> 何かあると思う。ヨーロッパを参考に。
3	<u>チャートやフロー図ではなかなか表しにくい複雑な問題があるように思うが、それぞれの委員の先生方の議論は大変興味深く、もっと深めてから答えを導いていただくと良いのではないか。</u>
4	国の政策として公益性を高めることが第一になるのは当然なので、基本的には賛成だが、個人レベルで考えると、どうしても <u>公益性のために個人に不利益を被らせることは難しい</u> と感じている。例えば、棚田を維持していくために現地の住人に保全していってもらおうというのは、恒久的な政策としては難しいのではないか。
5	広田先生の問題提起が印象に残った。 <u>田舎の土地利用はほとんどが個人ベースの成り行きで口出しできない。荒廃地を(新発想で)模索する主体が現れた場合に有効に関われる仕組みは是非検討願いたい。</u>
6	<u>外部不経済の線引きは難しい。</u>
7	<u>国土交通省と地域住民の見るところが違っている。</u> 机上と現場の捉え方が違うので、現場の声を国民からアンケート調査することがあれば、現状がもっと把握できると思う。

(誤字等は事務局で修正を行っている。)

一般傍聴者へのアンケート(第10回国土管理専門委員会)での主な御意見

その他の意見

NO.	回答要旨
1	領域、 を生む要因には、人口の都市への一極集中、経済・生活環境等多くの変化が重なり合っている。 <u>国土保全とともに、経済問題を一緒に考える必要がある</u> ような気がする。 <u>出口(今後の対策)を考えるに当たって、入口(どうしてこうなってきたのか)も検討していただきたい。</u>
2	住民がもっと考えなくてはいいけない。 <u>住民からどうしたいかを提案する必要がある</u> 。当たり前のような景色になってはいけない。
3	公開したこのような場での委員会、大変参考になった。 <u>地域のあるべき姿がもっと色々な立場、色々な考えの方々に議論されていくことを望む。</u>
4	参考資料1の15pで「棚田自体が失われたことに対する、住民の特別な感情はない」というのが表すように、 <u>たとえ残っていれば(観光地として)すばらしい棚田だったとしても、現地の人々にとっては「作業のやりにくい水田」でしかないのかもしれない。</u> もちろん、現地の住民が「不利益は感じていない」と言っているからといって、本当に不利益がないかどうかは結論づけられないであろうが、 <u>田舎(地方)は都会の人間が喧噪から離れて癒やされるための土地ではなく、その地域に住む人々のものである、</u> という考えは忘れてはならないと思う。
5	中山間地域の高齢化は急速に進んでいる。難しい問題とは思いますが、 <u>できる限りのスピード感を持って対処していただきたい。</u>
6	国土を管理するとは大変なことと思う。 <u>人類は土が無ければ生きられない</u> と感じる。
7	<u>過疎地対策に財源投入、助成をいただきたい。</u>
8	相続による土地の所有権移転登記について、中山間地域を中心に進んでいない現状である。 <u>相続登記が放置されているので、相続による土地の所有者の登記を義務化する形で、積極的に取組を検討していただきたい。</u>

(誤字等は事務局で修正を行っている。)